

1982年（昭和57）の宅地造成に伴う事前調査で発見された全長42mを測る前方後方墳です。周濠は、古墳の周りを全周していますが、墳丘主軸の南側では墳丘の形状に沿って巡っているのに対し、北側のくびれ部付近では、周濠の外側のラインが直線的です。前方部はほぼ直線的に開いており、その長さは20m、幅19mです。後方部は、長さは22m、幅は20.7mです。周濠くびれ部の付近で検出された井戸状の遺構から、近江地域の特徴をもつ古墳時代初頭頃の土器が見つっています。また周濠の東角からも甕や東海地域に特徴的な丹塗りの壺片が出土しています。富波古墳は大岩山古墳群8基のうちで最古に位置づけられます。



古墳全景



出土土器

大岩山丘陵の北西に広がる自然堤防上に築造されており、周辺には古富波山古墳や富波古墳が所在しています。江戸時代には、後円部の墳丘の亀に似た形から、字名に亀塚の名前が生まれました。古くから土取り場となり、後円部のみに墳丘が残存していました。2007年の保存整備に伴う試掘調査により周濠が発見され、後円部の墳丘は径33m前後で、西へ伸びる前方部があり、全長45m以上の帆立貝形または前方後円墳と推察されます。後円部は、後世の削平で段築の状況や埋葬施設は不明ですが、墳頂部で標高96.3m、周濠底で標高91.6mを測ります。出土した埴輪は円筒埴輪・朝顔形埴輪・形象埴輪などが認められます。円筒は、口径25～30cm、底径20cm前後を測り、形態は基底部を含め4段前後のものに復元できます。また埴輪の外面に叩き技法を持つものが認められます。古墳の形状・埴輪や須恵器の時期から、5世紀後葉～末頃に造られたと考えられます。



整備前



出土遺物（須恵器・埴輪）

大岩山古墳群

— 滋賀県野洲市所在 —



甲山古墳 石室

国指定史跡 大岩山古墳群とは

野洲市小篠原・辻町・富波に所在する古墳群です。

1941年円山古墳、甲山古墳が指定され、1982年富波古墳の発見を契機に、1985年名称を大岩山古墳群と変更され、富波古墳・古富波山古墳・亀塚古墳・大塚山古墳・天王山古墳・宮山・号墳の6基の古墳が追加指定されました。最大の特徴は、野洲川流域を支配した有力首長墓が、古墳時代初頭～飛鳥時代にかけて、系統的に造墓が確認され、のちに「安」氏と呼ばれる豪族たちの古墳群だと考えられることです。古墳群は、弥生時代終末の大岩山銅鐸群（24個）の埋納地にも隣接しています。

大岩山古墳のうち、桜生史跡公園は、野洲市小篠原に所在し、公園内には国史跡の天王山古墳、円山古墳、甲山古墳の三つの古墳を保存整備し、2001年11月3日から史跡公園として公開しています。

1

かぶと やま
甲山古墳

桜生エリア

天王山古墳北側の丘陵先端にある直径約30m、高さ8mを測る6世紀中頃の円墳で、西に入口を持つ横穴式石室があります。石室の大きさは全長14.3mで、玄室の長さ6.6m、幅2.9m、高さ3.3mで、奥からみて右に袖をもちます。通路（羨道）の天井石を階段状に積んで奥に向かい下って行くようになっています。玄室の中央に刳拔式家形石棺を安置しています。床面には玉石を敷き、その上には朱や雲母が散乱していました。また、冠や装飾大刀に取付く飾金具や金糸、山梔玉、切子玉、棗玉、ガラス玉などを始め、大刀、小刀、矛、鉄鏃、挂甲や、金銅製の鐘形鏡板付轡や馬甲などが出土しています。滋賀県内で、現存する最大の横穴式石室であり、石棺も最大のものです。

〈刳拔式家形石棺〉

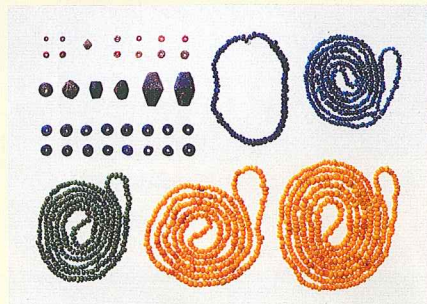
玄室の中央に安置され、大きさは長さ2.60m、幅1.60m、高さ1.90mあります。分析の結果、石材は熊本県宇土半島の馬門石製でした。蓋には長辺に各2個、短辺にも長方形の縄掛突起を備えています。棺内は盗掘を受け、僅かにガラス玉が2点出土しただけでした。石棺は内外面とも朱とベンガラによって赤く彩色されています。



再発見時の石棺



鉄地金銅製鏡板付轡



玉類

2

まろ やま
円山古墳

桜生エリア

6世紀前葉に築造された直径28m、高さ約8mの円墳で、西に入口を持つ横穴式石室があります。石室は長さ10.8mあり、玄室は長さ4.3m、幅2.4m、高さ3.1mで、奥から見て右に袖をもちます。入口と玄室床面とは約1m斜めに下り、天井石も奥に向かって階段状に下がる構造となっています。玄室には刳拔式石棺があり、調査によって、その奥壁側からも新たに組合式石棺が発見されました。また、床面には玉石が敷かれ柱穴が検出されました。玄室床面から鉄製武器を中心に多量の遺物が出土しています。装身具には、銀製の垂飾付耳飾と螺旋状飾金具、冠に取付く飾金具類、銀製空玉やガラス玉など、振環頭大刀の銀製握金具や鹿角製の柄をもつ小刀、矛、鉄鏃、挂甲と衝角付冑、弓矢を納める胡録など武具類、また轡や鞍・鐙などの馬具もみられます。野洲地域に馬門石の石棺を最初に埋葬した古墳です。

〈刳拔式家形石棺〉

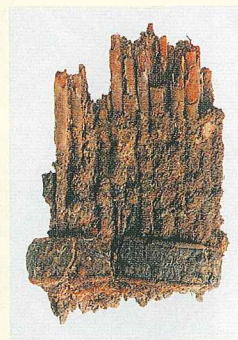
長さ2.85m、幅1.46m、高さ1.83mの大きさの石棺は、身と蓋の内面をくり抜き、家形に加工しています。石材は熊本県宇土半島の馬門石製で、蓋には長辺の斜面に各2個と、前後の短辺にも各1個の縄掛突起があり、全体に赤色顔料が塗られています。

〈組合式家形石棺〉

奥壁に三方が接するように安置され、蓋と手前の側石は破壊されていました。石棺の底石で長さ2.45m、幅1.20mを測り、底石は板石からなり、周囲を一段低く加工して側板のをせ、小口板は溝が設けられ長側板を挟み込んでいます。長側板の外面には小さな長方形の突起を備えています。蓋は、出土破片から低い屋根形で側板と印籠合せの構造で組合わされています。石材は、大阪と奈良の境に位置する二上山の凝灰岩を用いています。二上山製凝灰岩の石棺としては、高島市鴨稻荷山古墳と共に古いものです。



円山古墳 刳拔式家形石棺

てつぞく ころくかなぐ
鉄鏃・胡録金具

3

てん のう やま
天王山古墳

桜生エリア

北に前方部を向ける前方後円墳で、全長50m、後円部径26m、前方部長24m、高さ8mです。墳丘調査の結果、古墳は丘陵を利用しているため、盛土が比較的少ないことが分かりました。埋葬主体は発見されていませんが、前方部で西に入口をもつ小さな横穴式石室を検出しました。石室の大きさは長さ4.3m、玄室の長さ2.9m、玄室の幅1.0mの小さなもので、奥から見て右に袖をもち、通路（羨道）は短く、小さな石を積み上げて入口を閉じています。造墓時期は、6世紀初頭前後の古墳と考えられます。



横穴式石室（前方部）

4

おお つか やま
大塚山古墳

辻町エリア

史跡保存整備に伴う調査で直径57m、高さ7.3mの後円部に北西側に特異な造出をもつ帆立貝形と判明しました。楕円形の周濠をもち墳丘基底部に葦石が検出されていることから、本来は墳丘斜面は葦石によって表飾されていたとみられます。出土遺物は埴輪が大半を占めますが、盾形木製品の一部が出土しています。後円部中央からは、副葬品とみられる鉾留付甲、ガラス玉などが出土しています。埴輪は、円筒・朝顔形・蓋形・家形・鳥形・船形などが見つっています。造墓時期は、出土須恵器により5世紀前半に比定されま



出土遺物（埴輪等）

7 古富波山古墳 富波エリア

1974年（昭和49）の宅地造成に伴う調査で主体部掘方の一部が検出され、木棺直葬と推定されています。墳形については直径約30mの円墳と考えられています。明治年間の開墾作業中に、古墳の北隅において盛土の約3尺（0.9m）下から3面の銅鏡が出土しています。出土した鏡はいずれも舶載鏡と考えられています。径21.8cmの三角縁四神二獣鏡は陳氏作の銘があり、銘帯の一部を欠損するものの、それ以外はほぼ完存しています。野洲川流域の首長墓で、最初に三角縁神獸鏡が配布された古墳となります。



古富波山古墳の三角縁神獸鏡

1962年（昭和37）に新幹線工事の土取りによって、大岩山から東へ伸びる位置で発見されました。古墳は直径15mの円墳で、南側に開口する横穴式石室があります。石室の大きさは長さ8.1mで、玄室に花崗岩製の組合式石棺が配置されています。出土遺物は、耳環・須恵器が出土しています。6世紀末～7世紀前半の築造と考えられています。花崗岩の組合式石棺は、滋賀県内で最古のものです。



銅鐸博物館
宮山二号墳 整備前の石室内

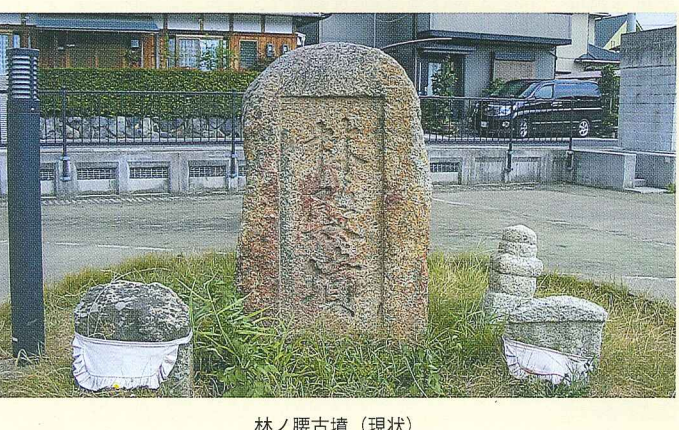
野洲市歴史民俗博物館（銅鐸博物館） TEL 077-587-4410
野洲市辻町57番地-1【休館日：月曜日祝日の翌日（土・日・祝日開館）】

9 林ノ腰古墳 小篠原地区

小篠原遺跡の一角で、1993年の区画整理事業に伴う調査によって発見されました。墳丘はすでに削られています。全長90mの前方後円墳です。後円部径40m、前方部幅60mを測り、内濠が全周します。外濠は、約幅10mを測り2重濠となります。遺物は、大量の円筒・朝顔形・形象埴輪の外に、笠形・石見型盾形の木製品が出土しました。大岩山古墳群中、最大規模の古墳で、2重濠の周濠を有するものは、滋賀県唯一のものです。造墓時期は、5世紀末～6世紀前半と推定されます。江戸時代に編集された『近江輿地志略』によると、小篠原集落の北側の塚穴から兜・刀などの出土記事があります。同一の古墳とすると、江戸中期に墳丘・石室が残っていたこととなります。現地近くに「林殿墳」の石碑が残っています。



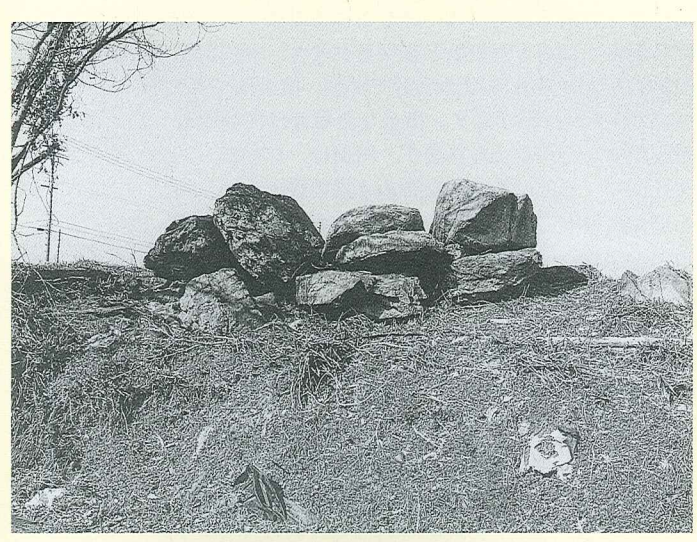
出土遺物（埴輪）



林ノ腰古墳（現状）

10 塚越古墳 妙光寺地区

平成13～15年度の範囲確認調査で、直径18mで高さ2mの円墳であることがわかりました。墳頂部に横穴式石室の天井石が露出しています。石室は南側に開口しているものと考えられます。内部は未調査ですが、6世紀末～7世紀前半の古墳と推察されます。中畑・古里遺跡内にあり、同時期の集落跡が発掘されています。



塚越古墳

11 越前塚古墳（市指定史跡） 小篠原地区

妙光寺山の北西先端部の独立丘陵上に位置する全長50mの前方後円墳です。前方部幅21mで高さ3m、後円部径14mで高さ4.7mを測ります。後円部の中央には、北へ開口する右片袖の横穴式石室があります。玄室は、長さ5.3m、幅2.9mであり、扁平な板石をもち送りながら、積み上げます。羨道部は細長く、くびれ部方向に開口します。5世紀末～6世紀初頭に、前方後円墳へ横穴式石室を導入期の滋賀県最古の古墳です。



横穴式石室内



古墳の造墓時期				国指定	市指定
年代	古墳時代前期		中 期	後 期	飛鳥時代
エリア	300年	400年	500年	600年	
富 波	富波 古富波山		五之里	亀塚	
大岩山	大岩山第二番山林 大岩山			天王山 円山 甲山	宮山1号 宮山2号
辻 町					桜生7号
小篠原		大塚山		林ノ腰 越前塚	塚越

桜生史跡公園案内所
TEL 077-587-4234
野洲市教育委員会文化財保護課
(直通) TEL 077-589-6436
野洲市西河原2400番地
2008.09.26 刊